



ごさいじん
御祭神

すさのおのおかみ
素盞鳴大神

けひのおおかみ
氣比大神

おしくまのみこ
忍熊王



劔神社本殿（県指定文化財）

入母屋造・柿葺
千鳥破風が主棟と同じ高さで唐破風をもつ

寛永4年(1627)

ご由緒
ゆいしよ

悠久の昔、当社の遙か北に仰ぐ座ヶ岳くらがだけの峰に素盞鳴大神を祀り劔大神と称えられてきました。

第十四代仲哀天皇の第二皇子忍熊王は、劔大神の御神威を頂き当地方を無事治めることができたことを謝び、現在の地に社を建て「劔大明神」と仰いできたことを社記は伝えています。

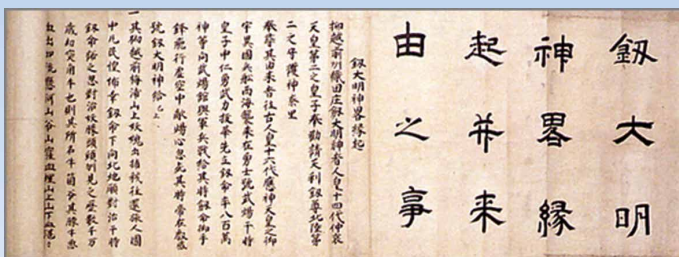
奈良時代より祈願の霊場として朝廷をはじめ多くの人々から厚い信仰を受け、現在所蔵する国宝の梵鐘は第四十九代光仁天皇の御奉納といわれています。

武家の時代には平重盛公・朝倉氏を始め多くの武将の崇敬を集め、特に織田信長公は氏神と崇めて、格別の信仰をもつて神領を寄進し当社を保護しました。

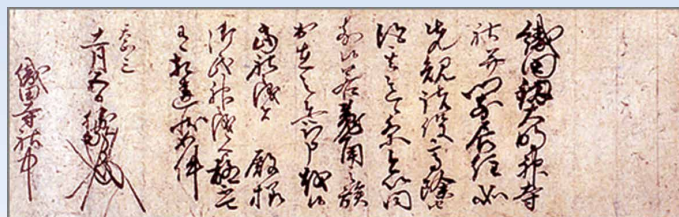
江戸時代の末には伏見宮家の御祈願所と定められ、拝殿の御寄進をいただき厚い尊崇をうけて今日に至っています。越前国二の宮として一の宮の氣比神宮と共に、県民はもとより県外の方々の信仰も厚い神社です。



忍熊王の夢枕に立たれる素盞鳴大神



●劔大明神略縁起 嘉暦3年(1328) 劔神社にまつわる神話などが述べられている



●柴田勝家諸役免許状 天正3年(1575) 柴田勝家が劔神社(織田寺)の門前に対し税の負担を免除したもの「当社の儀は殿様御氏神」と書かれている



劔神社古絵図復元模型(越前町織田文化歴史館蔵)

室町時代後期の劔神社の様子
境内の北方の劔神社本社を中心として南方には神宮寺(織田寺)関係の建物がある
神仏習合の様子を知ることができる

伝統芸能

秋の例祭に奉納される



明神ばやし

県民俗無形文化財



劔神社敬神団の獅子舞

梵鐘 国宝

奈良時代末・神護景雲四年(七七〇)

光仁天皇の御奉納と伝えられ、国内在銘梵鐘で三番目に古い物である



釈迦八相涅槃図

重要文化財

鎌倉時代中期、絹本着色 現在奈良国立博物館に寄託

古文書

朝倉五代・織田信長
公・柴田勝家・徳川家
康等の貴重な資料多数



銘(陽刻)

劔御子寺鐘
神護景雲四年九月十一日